



神経筋疾患の在宅支援の現状と課題

片山 望†

IRYO Vol.77 No.2 (144-149) 2023

【キーワード】 神経筋疾患, 非侵襲的陽圧換気療法, 機械による咳介助, 在宅支援

はじめに

神経筋疾患はさまざまな病型・特性がありますが、年齢や症状の進行にともない、人工呼吸器などの高度で多様な医療が常時必要となるケースが非常に多い疾患である。さらに、中枢神経障害をとまなう患者も一定数の割合で存在し、予後予測や治療選択に苦慮することに加え、生活場面における介助者の精神的・心理的な負担も問題となることもしばしばみられる。近年、国内外のガイドラインに基づく非侵襲的陽圧換気療法（Noninvasive Positive Pressure Ventilation ; NPPV）の使用による生命予後の延長や、ノーマライゼーション思想や在宅医療分野の急速な発展により病院外に生活範囲が拡大することで、国立病院機構が長年培ったノウハウを院外・地域に向けて提供する機会が増加しています。本稿では、国立病院機構仙台西多賀病院（当院）における神経筋疾患患者に対する在宅支援の現状と、その中でみえてきた課題をリハビリテーションからの視点で述べます。

神経筋疾患のリハビリテーション

神経筋疾患は四肢・体幹の筋力低下が主症状となるが、疾患により進行速度、上肢・下肢、近位・遠位、左右差の有無など症状はさまざまである。筋力低下に対するトレーニングのエビデンスは乏しく¹⁾、患者の好む最大努力以下の快適な許容範囲にとどめることが勧められている²⁾。歩行が不安定になると、日常の移動手段として車いすを使用し、上肢の筋力低下が進行すると、車いすを操作することが困難になる為、電動車いすを使用する。車いすの姿勢は呼吸や嚥下などの機能面、就学・就労や介助のしやすさなどの生活スタイルに応じて対応する必要があり、四肢・体幹のみならず、横隔膜を主とする吸気筋の筋力低下による換気障害がおこることで、二次的に肺・胸郭のコンプライアンスの低下をきたし、さらに換気障害を助長するという悪循環がおこることもある。吸気筋のみならず、呼気筋の筋力低下も進行すると、気道クリアランスを維持することができなくなり、呼吸不全の悪化や窒息などを引き起こすリスクが高くなる。これらの換気障害に対して現在は、NPPVが第一選択であり³⁾、QOLを維持しやすいNPPVを有効に使用できるように、対象となる

国立病院機構仙台西多賀病院 リハビリテーション科 †理学療法士
 著者連絡先：片山 望 国立病院機構仙台西多賀病院 リハビリテーション科
 〒982-8555 宮城県仙台市太白区鉤取本町2丁目11-11
 e-mail : katayama.nozomu.jg@mail.hosp.go.jp
 (2023年1月13日受付, 2023年4月20日受理)

Current Status and Issues in Hospital to Home Transitional Care for Neuromuscular Disease
 Nozomu Katayama, Department of Rehabilitation, NHO Sendai-Nishitaga Hospital
 (Received Jan. 13, 2023, Accepted Apr. 20, 2023)

Key Words : neuromuscular disease, noninvasive positive pressure ventilation, mechanical insufflation exsufflation, hospital to home transitional care